

チリ 日本市場へのレモン販売を促進

EUROFRUIT 2023年8月14日

チリの柑橘類委員会は、日本市場への販売を促進する戦略の一環として、日本の輸入業者と流通業者向けのワークショップを開催し、柑橘類の提供の可能性を強調した。

イベントの中で、果実輸出業者協会(Asoex)のアジア・ヨーロッパ市場向け販売部長であるシャリフ・クリスチャン・カルバハル氏は、最新の生産・輸出統計と、輸入業者をサポートするための販促ツールを紹介した。柑橘類は南半球の全果実輸出の35%を占め、柑橘類の中でレモンは26%を占めている。チリは南アフリカに次ぐ南半球で2番目に大きな柑橘類輸出国であり、(南半球の)総輸出量の10%を占めている。

チリ柑橘類委員会の事務局長であるモンセラート・バレンズエラ氏は、「柑橘類はチリ産果実の世界への輸出量の13%を占めており、年間約40万トンの輸出がある。我々の主な市場は米国だが、レモンに関しては日本が非常に重要な輸出先である」と述べた。

同委員会はまた、輸入業者と流通業者が成長の可能性を見極める一助とするため、いくつかのスーパーマーケットと日本の主要な地域市場である東京の大田卸売市場のツアーを開催した。

カルバハル氏は「目的は、荷受け、販売形態、展示方法をその場で視覚化して、改善または強化すべき要素を確認することであった」と述べた。

バレンズエラ氏は「日本は非常に重要な市場である。今シーズンこれまでに、チリは3万9,200トンのレモンを輸出しており、そのうち2万2千トンが米国に、1万1千トンが日本に輸出された」と指摘した。

同氏は、輸入業者が輸入計画を策定するのを助けるためにシーズンを通して同委員会が作成し、毎週配布している収穫・輸出レポートについて紹介した。

執筆者: マウラ・マクスウェル

南アフリカ 柑橘類の出荷量は当初予測を約1千万箱下回る

FreshPlaza 2023年8月17日

ある匿名希望の情報筋は、「当初の予想よりも数量が少ないのには様々な理由がある。最初の予測は1億6,500万箱であったが、現在は1億5,600箱である。果実の量が少ないのは、品質問題と収量のためである。全般的に見て、それは植物検疫上の理由よりも供給側の問題であった」と述べた。昨年は、合計1億6,480万箱の柑橘類が南アフリカから輸出された。

中秋節(今年は9月29日)の前に中国に到着する最後の貨物は準備中である。欧州での南アフリカ産果実の免税期限が近づいていることも貿易の流れに影響を及ぼし始め、アジア向けの輸出業者は、ヨーロッパ向け中心の季節になっており、果実を調達することが通常よりも困難であると本サイト(FreshPlaza)に語った。

バレンシア種の出荷量は当初の予測より500万箱少ない。

今シーズン、果汁の価格が堅調で、北部の生産者に輸出とは別の選択肢を与えており、輸出されたグレープフルーツは300万箱少ない。加工向け品質と小玉のグレープフルーツは輸出されていないが、南アフリカ国内の伝統的なグレープフルーツ市場では消費者の需要が低迷しているようである。

ダーバン港では、リーファーコンテナの輸出シーズンのかかなりの低調ぶりが注目されている。今週以降、同港では北部の産地からの柑橘類(主にバレンシア種とマンダリン)の出荷量が減るものと予想している。

マンダリンの輸出量は昨年を約300万箱上回り(3,380万箱と予想)、レモンも2022年の3,470万箱から今年は3,540万箱に増加した。

執筆者: キャロライズ・ヤンセン